

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4371200082		
法人名	特定非営利活動法人 憲友会		
事業所名	グループホーム さち		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上字西大平7314番地		
自己評価作成日	令和2年 8 月 20 日	評価結果市町村報告日	令和2年11月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年 10 月 7 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者、その家族、職員を大きな家の大家族の一員として生活しています。「ただいま」「いってらっしゃい」「気を付けて」が挨拶です。又、食事にも力をいれており、季節の旬の食材を取り入れている。裏の畑には、無農薬の野菜を植えておりメニューに入れており、入居者の皆さんに好評を得ている。園庭には、緑の芝生、花壇には、赤いハイビスカスが咲き乱れている。ホームの居間や食堂、入居者様の各部屋からは、湯島や遠くに「島原半島が見渡せ入居者様や家族、訪問者の方々から景色が綺麗と喜ばれている。ホームでは、玄関には鍵をかけていないし、夏場は全室網戸にしており開けたままの状態です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設15年となり、地域に根付いて運営がなされてきた事業所では、変わる事のない地元の海を臨み、手入れの行き届いた花に囲まれ、明るく穏やかな生活が続いています。年々介護度も上がり車椅子の利用率も高くなったことで、以前のように気軽な外出が難しくなっていますが、職員と昔の話で盛り上がり、和気藹々と過ごす様子が窺えました。管理者からは、日々「食事」と「清潔」を大切にされたケアを行っている様子を見ることができました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、施設内研修で理念の共有を行い、敬意を持ちながら実践している。	事業所では「人生の高齢者に敬意を表します」を柱とする理念が日々のケアに継続され引き継がれてきている。	経験が長い職員も多く、これまでのケアの取り組みの様子が確認できましたが、職員全体で理念を振り返り、理念を共有したケアを確認する機会を持たれることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の知人等が面会に来られたり、又、日常での地域の方々への挨拶や世間話に心がけている。	今年度は感染症予防の観点から地域と関わる機会が少ない状況であったが、例年、近隣住民や子ども会等の来訪による関わりが継続されたものとなっている。近隣住民と事業所とは折に触れ、日々の生活での関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	別荘地帯ではあるが、近隣の方々との交流を深めている。(餅つき、清掃作業等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回、運営推進会議を開催している。高齢者ふれあい課、民生委員、元区長、家族代表の方に参加して頂き、活動報告や参加者の意見・要望等を聞きサービスの質の向上に取り込んでいる。	隔月開催の運営推進会議では地域・行政からの参加もあり、地域全体で入居者を支える様子がある。今年度は書面による運営推進会議も余儀なくされたが、入居者の介護度にも変化が見られるため、開催方法を模索しているところである。	運営推進会議では入居者の状況・事業所の取り組み・課題等を報告し共有されていますが、開設15年を機会として、理念をテーマに取り上げてみられることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡を取り指導を受けている。	運営推進会議への参加や、事業所と市のこれまでの関係性から、細やかな協力関係が構築されている。特に今年は感染症予防についての意見交換も見られ、これまで以上の協力体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の知識を施設内研修や勉強会で学びながら活かすケアを実践している。	日々のケアの中で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。身体拘束についての資料等を用い、具体的事例等を職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、施設内研修や勉強会において学び、知識を共有して虐待防止に努めている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がおられるので、病院のSWや家族と連携しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は、利用者と家族との最初の共同作業であるため、必要書類について十分に説明を行い、家族からの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族代表に施設の運営や要望について意見をいただいている。面会時やケアプラン更新時にも家族の意見を聞いている。	入居者は地域からの入居者であり、家族との関わり作りにも努めている。入居者からの意思表示は年々難しくなっているが、職員の日々の声掛けや関わりで意見・要望の把握を行っている。家族の来訪時や連絡等で家族の意見・要望を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、施設内研修を行い、職員からの意見・提案を聞く機会を設けている。	管理者は日頃の職員の関わりにて、意見や要望・提案等を聞く機会を設けており、出された意見は都度検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し勤務時間の調整など就労環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修に参加して、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して、同業者と交流を行っている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を基に、本人から話を聞き性格などを把握を行い、他の利用者や職員と安心して共同生活を送ることができる様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安、要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、ニーズを見極め適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の功労者」という事を前提として、古き時代の良さ、新しき時代の良さなどを会話の中で持ちつつ、持たれつつの人間関係を作れる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際は、施設での生活状況や、課題などを報告、相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の日頃の表情、言動に注意して心理状態を想像しながら、家族、知人が訪問された時は一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。	入居者の介護度も年々あがり、車椅子の利用も多くなったことで、気軽な外出によるこれまでの関係継続は難しくなってきた。家族や知人等の来所を歓迎し、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけている。又、仲の良い利用者から声をかけて頂き笑顔が見られる様に努めている、		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、病院に行かれた時は、情報提供を行い、在宅復帰時には、ケアマネジャー、民生委員の方々に連絡を取り、在宅生活がスムーズに送れる様に支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の思いや意向を聞いて、職員で話し合い本人の思いに沿った生活の実現に努めている。	年々、入居者からの意思表示が出にくくなってきており、職員の日々の関わりの中で入居者の思いや意向を把握している。職員からの声掛けがよく見られ、入居者との関わりの様子が窺われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から思いを語る機会を作りこれまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設研修会にて、事例検討会を行い職員の意見を聞いたり、面会時に家族の要望等をお聞きし介護計画を作成している。	入居者の状況は日々の関わりから把握し、職員会議時の事例・意見収集から検討し、家族の意見を取入れて管理者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人の日々の状態、特に不穏状態時に言われた言葉、状況等をケース記録や業務日誌に記録して職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることができる様に努めている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知己の区長さん、民生員さんに運営推進会議に参加して頂き、協力、支援をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も主治医の変更をせずに、月1回の往診やほとんどの方が、施設の主治医の訪問診療を月2回受けておられる。	入居前からのかかりつけ医による継続した受診を支援している。現在、2医療機関より往診・訪問診療を受け、急な体調変化の際も訪問診療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員全員が入居者の体調等を把握していて、体調不良等があった場合には主治医に連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い、施設で退院後対応可能であればカンファレンス等に参加して情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合の意思確認書を作成し、十分に説明を行い、施設のできるケアについて同意の上、署名、捺印をしていただいている。	重度化した場合の「ホームで出来ること」について、入居時に本人・家族へ説明し、意向を確認している。実際にその時を迎えた際には、関係者・機関で話し合いを重ね、入居者にとってより良い状況となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態を踏まえ、少しでも異常を感じた場合は情報を共有して、あわてず、落ち着いて行動する様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練や施設研修会で災害時の話し合いを行い、有事の際の対策をしている。	海沿いに立地する環境から、台風の際には高潮の心配もあり、職員間で話し合い、状況によっては夜間の職員体制を急遽増やす等対策を行った。	

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の尊厳を損なわない声かけを行い、節度をもった対応に努めている。施設内研修においても個人情報保護について学ぶ機会を設けている。	「人生の功労者に敬意を表します」が理念のひとつでもあり、日頃のケアにおいて入居者の人格を尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、入居者の方の思い等を聞き逃さない様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決めず、できるだけ入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った、身だしなみができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を活かした献立をたて、入居者の方達に楽しんでもらっている。	事業所職員による手作りの食事を提供している。食材豊富な地域でもあり、季節の食材をふんだんに使っている。食事時には職員も共に席につき、必要な介護と入居者との時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個人の摂取表を記録し、不足分がないか常にチェックしている。特に夏場の水分が不足しない様に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には、声かけをし口腔ケアを行ってもらっている。困難な方には、介助を行い清潔保持に努めている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立出来ている方も含め、困難な方達にも声をかけ、トイレ誘導を行っている。	日中は基本的にトイレでの排泄支援を行っている。汚染が見られた際には、清拭又は入浴を行い、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足になりがちなのを考慮して、出来る範囲で運動してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の発汗や失禁で汚染した場合には、シャワー浴をして清潔保持に努めている。	週2回入浴を基本としているが、汚染等が見られた際には個別に対応し、清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の意思を尊重し、無理のない様に、休まれるかどうかを声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をケース記録にファイルして、その都度、効能や副作用を確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った食事やおやつを提供したり、各イベントの手伝い等をして楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調を考慮し、散歩や日光浴をしてもらっている。又、家族の協力を得て、病院受診や自宅に外出される事もある。	入居者の身体状況・車椅子の利用等により、日常的で気軽な外出や全員での外出が難しい状況になってきた。気候の良い日には近隣の散歩等を楽しんでいる。事業所からの海の眺めも良く、外気を楽しみ景色を楽しむ様子がある。	



グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では、お金は預からず家族の方に日用品等を依頼したり、又、契約時に家族から必要な品物は購入してほしいと言われた場合には買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や、入居者が電話をかけたいと要望があった場合にはスムーズに会話ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関までのアプローチには、季節の花を植え、共有スペースには、ソファを置き過ぎしやすい様にしている。	海を臨む明るい事業所内からの景色は広々としている。敷地内には南の島を思い起こすような花々が咲き、景色を楽しませている。入居者がそれぞれ思い思いに過ごすことが出来るよう、ソファ等の配置がなされている。拭き掃除、換気等、清潔な生活環境の提供には開設以来力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有」空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で重い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リラックスできる様に、ソファ等を多く置き、入居者が楽しめる空間を作る様に努めている。		
54	(20)	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用していた家具等を持ち込み、自宅同様の生活ができる様に努めている。	日当たりよく明るい居室には慣れ親しんだ品々が見られる。それぞれの身体状況によりレイアウトされた生活用品は、季節物の保管等、家族の関わりも感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLに合わせた、日常リハを行っている。、居間の段差を利用した、		

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	を实地	目標達成に要する期間
h 1	23	日々、その人らしい生活。尊厳を尊重し、一人一人の思いを改めて確認する。	想いや意向を再確認し、入居者様一人一人に理念を持って支援していく。	日々の関わりの中で、会話の内容などを聞き取りをし、今後もできることなど、特徴を活かして支援する。	12ヶ月
2	35	災害発生時に慌てず確実に避難誘導ができるように取り組んでいく。	災害発生時に慌てず確実に避難誘導ができる。必要な食材や飲料水、物品等が備えられるようにする。	避難誘導が慌てず確実にできる様に、年間を通じて年2回実施。訓練を通じて確認できた課題や問題点を話あう。災害に備えた部品等の確認。不足品の準備を行う	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。